

八王子市

地域医療体制支援拠点の活動実績

(第6波：令和4年1月20日～3月22日)

令和4年3月作成

はじめに

地域医療体制支援拠点(以下「拠点」という。)は、主に新型コロナウイルスに感染し、陽性になった自宅療養者(施設療養者含む)の入院・受診調整を、医療従事者(災害医療コーディネーター及びロジスティックチーム)と連携して行うチームである。

自宅等療養者の状態から入院又は受診が必要と確認される場合、保健所や医療機関、施設等からの連絡を受け、その症状や経過から、医療専門職による再トリアージ(受け入れ医療機関の選定含む)を行いつつ、適切な医療に繋げる「コーディネート機能」の役割を果たす。

また、第6波における新たな拠点機能として、高齢者施設や障害施設等でのクラスター対応を担った。医療機関や高齢者所管と連携し、感染拡大防止に向けた現地介入や相談支援、研修会の開催等、新たな取り組みも複数行い、医療のひっ迫を防ぐための取り組みを推進した。

【開設期間】

令和4年1月20日(木) ~ 令和4年3月22日(火)

※ 土日祝は保健所内で実施

【主な業務】

- ① 入院・受診調整、受診手段確保(民間救急車・陰圧車等)
- ② 入院・受診待機の自宅療養者経過観察
- ③ 関係者間のネットワーク構築(関係機関 Web 会議、研修会等開催)
- ④ 高齢者施設・障害者施設入所者クラスター対応
 - ・施設感染者発生報告受付・状況確認(アセスメント)
 - ・クラスター班による現地介入・指導(感染拡大防止対策)
 - ・施設への医療チーム派遣調整
 - ・高齢者施設一時転所事業の活用調整

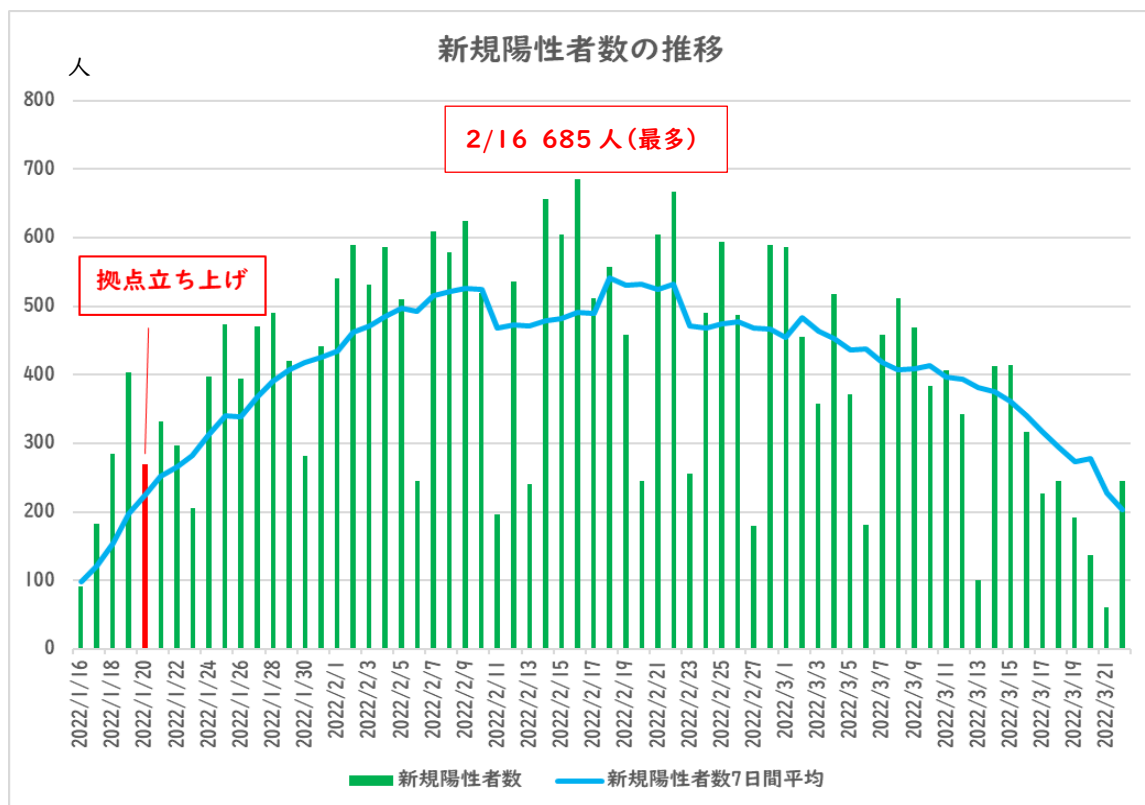
内容

1 拠点からみる第6波の特徴.....	3
1-1 傾向.....	3
1-2 数値でみる拠点活動.....	4
2 第6波における拠点の位置づけ及び運用体制.....	7
2-1 位置づけ.....	7
2-2 人員体制.....	7
3 拠点業務.....	9
3-1 入院・受診調整.....	9
3-2 施設クラスター対策.....	10
3-3 調整会議(Web会議).....	15
3-4 高齢所管との連携推進.....	15
4 高齢者施設一時転所事業(新規事業).....	16
5 まとめ(第6波の課題と今後に向けた検討).....	17
第7波に向けて.....	18

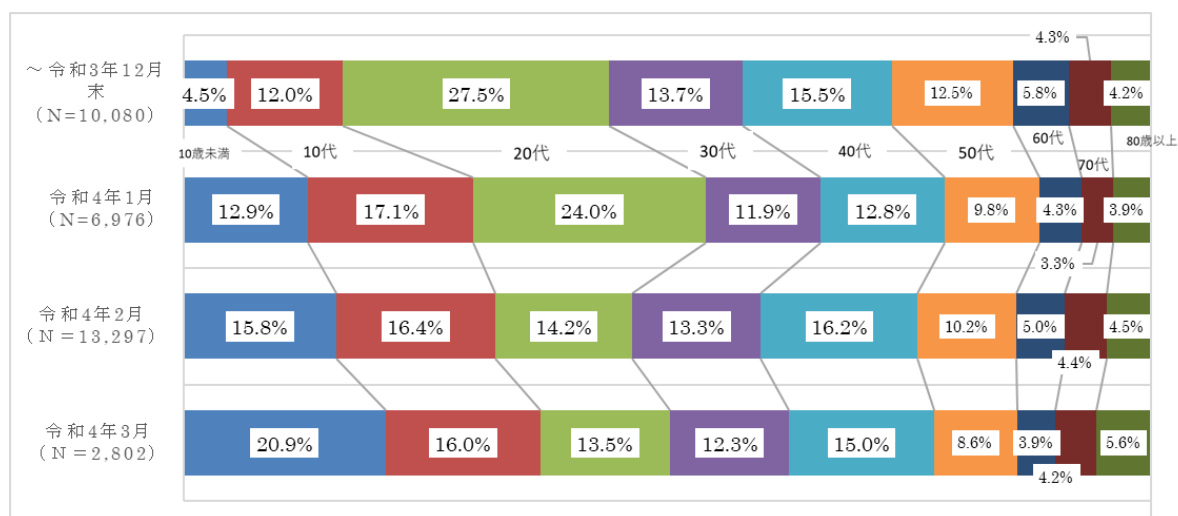
1 拠点からみる第6波の特徴

1-1 傾向

感染性の高いオミクロン株の流行により、新規感染者が1月中旬以降急激に増加し、長期間にわたり発生者の増加、高止まりが続いた。



年齢構成は比較的当初は若年層中心に感染が拡大しているが、2月に入り、家庭内感染が増加してきたことから30歳代以降が急激に増加している。また、80歳以上の高齢者にも感染が拡大しており、施設クラスターの発生が一因となっている様子もうかがえる。



1-2 数値でみる拠点活動

(1) 拠点での入院・受診調整の件数(年齢別、一般・クラスター別)

ア 入院・受診調整の状況

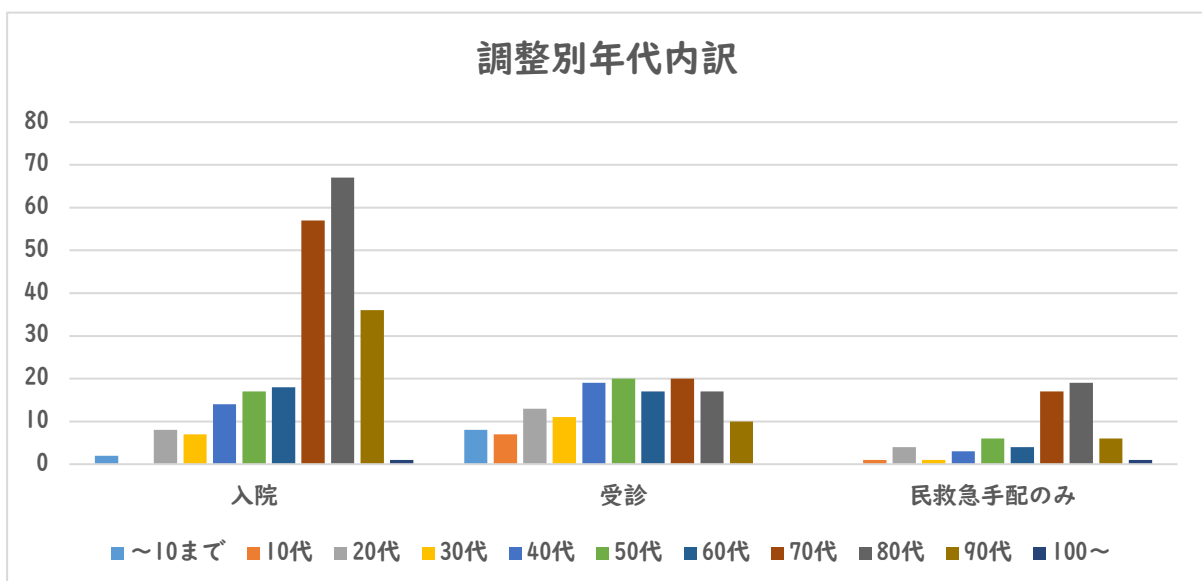
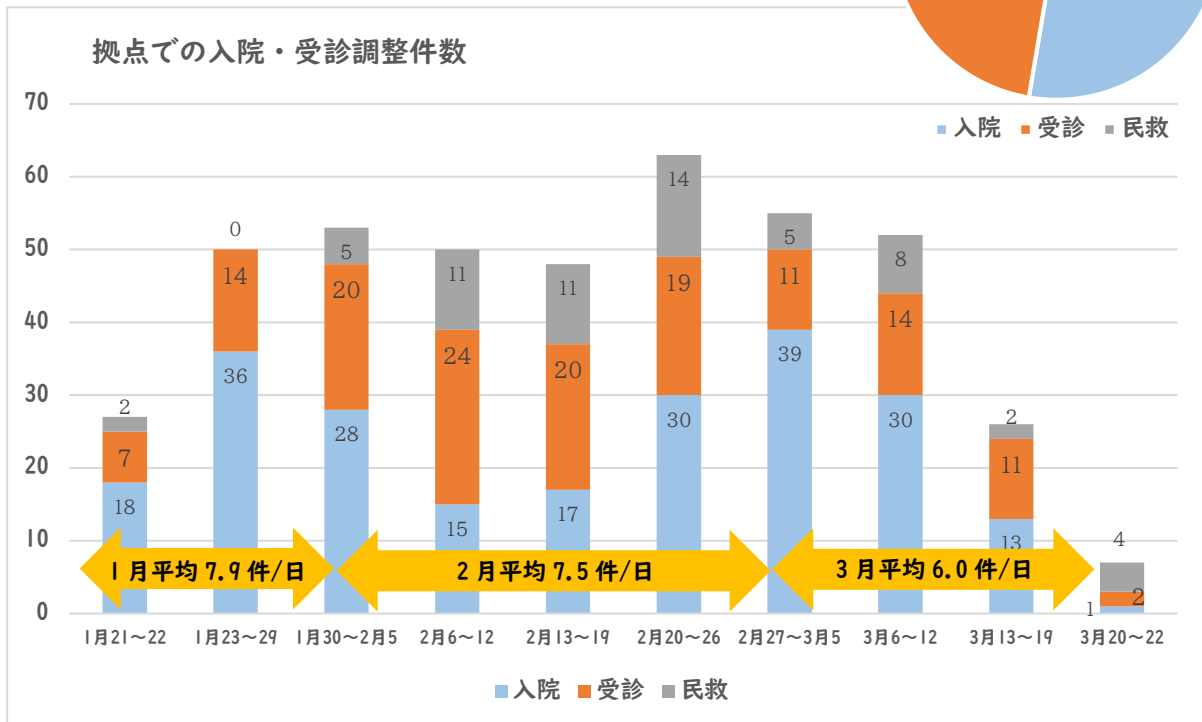
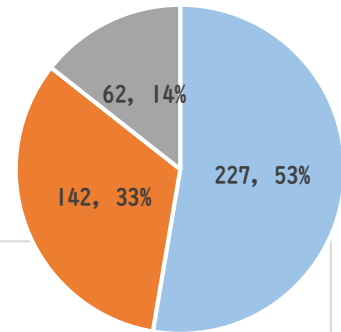
入院調整件数 : 227 件

受診調整件数 : 142 件

民間救急車の手配のみ : 62 件

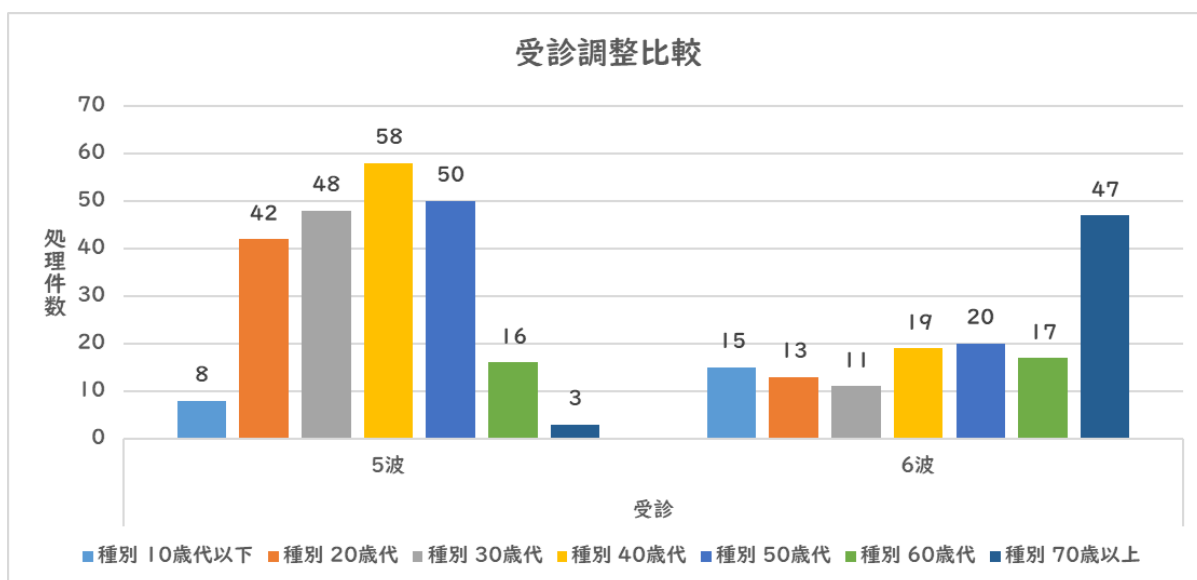
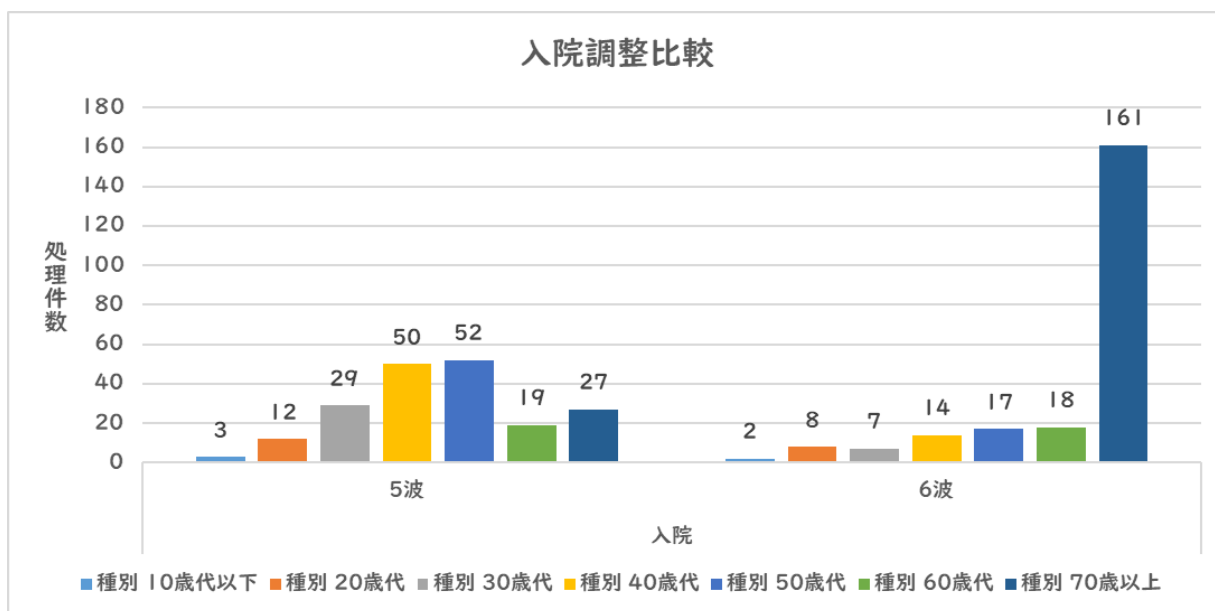
計 : 431 件

調整割合

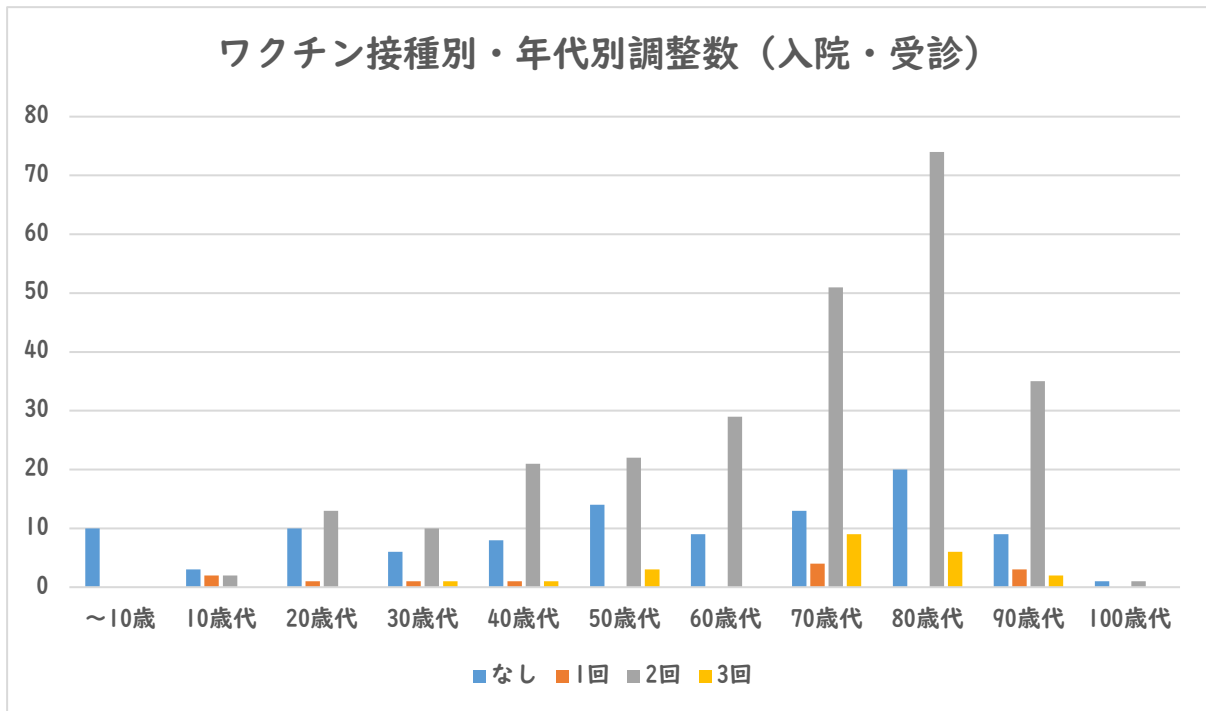


入院調整及び民間救急の手配は 70 歳代以上が大半を占めていたが、受診調整については 40 歳代以上で横ばいの傾向があった。

一方、前回の第5波と年齢別に比較すると、第5波は40、50歳代の調整が多かったのに対し、第6波は70歳代以上が大半を占めていることが分かり、入院受診調整ともに年齢構成に大きな違いがあることがみてとれる。



※ 第6波の受診調整について、70歳代以上が突出して見えるが、内訳をみると70歳代・20件、80歳代・17件、90歳代・10件となっており、比較的全年代とおして平均的な調整件数となっていた。



【参考】

- ① 1月から75歳以上の高齢者、施設入所者の3回目ワクチン接種を開始
- ② 1月末時点で、2回目ワクチン接種率は対象者の80%を超えていた

ワクチン接種別・年代別調整件数(入院・受診のみ)を確認すると、2回接種した方の調整が大半を占めていることがうかがえる。

また、ワクチンを3回接種しても一部入院調整が発生しているが、重度の基礎疾患(透析など)に起因する調整が多いと感じた。

(2) クラスター発生状況(第6波から対応)

第6波の特徴ともいえる施設クラスターの対応状況は以下のとおり。(令和4年3月22日現在)

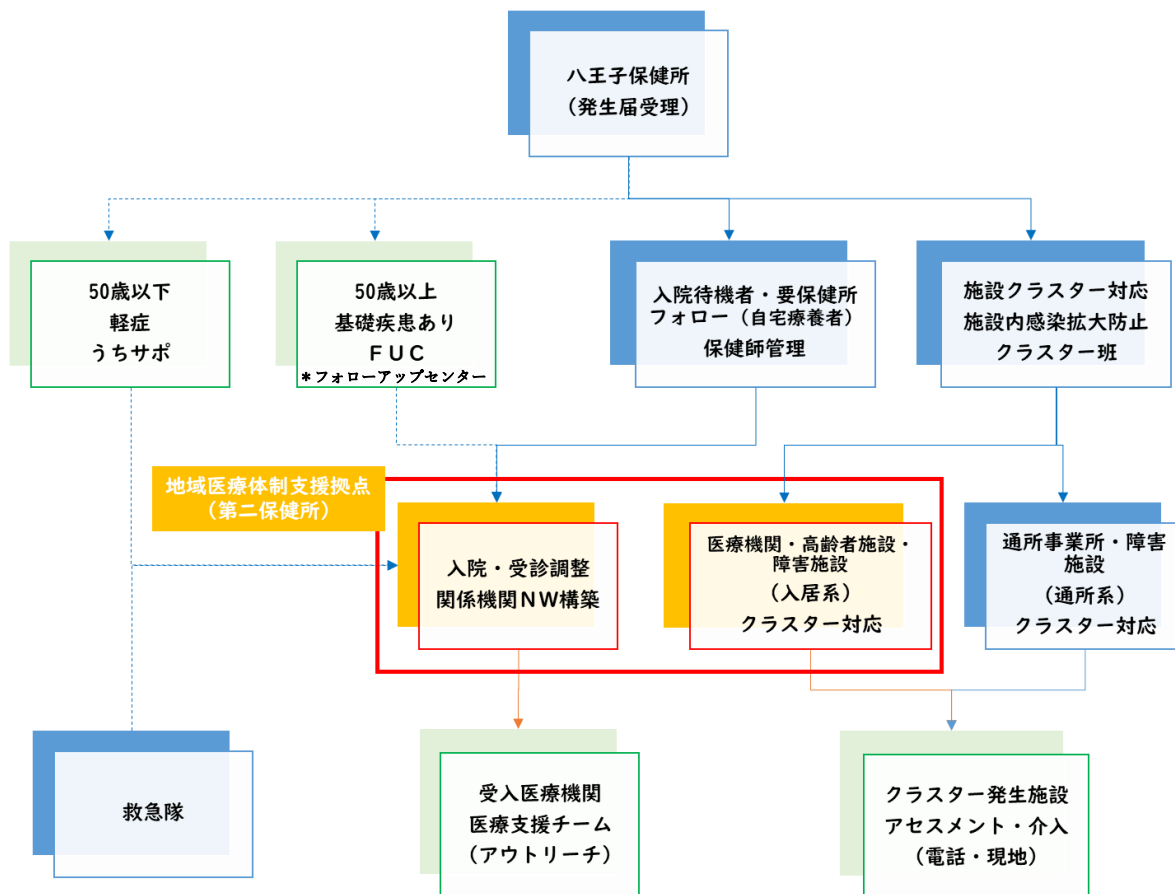
	現地介入	施設数	感染者		死亡者	入院・転院
			利用者	職員		
医療機関	延 32 回	22	353	139	5	53
高齢者施設		34	671	277	21	112
障害者施設		8	91	43	0	3
児童養護施設		2	20	9	0	0

※ 対応内容等については、下記 3-2 で説明

2 第6波における拠点の位置づけ及び運用体制

2-1 位置づけ

第二保健所(サテライト)として、本来保健所内で行う感染者の入院・受診調整及び施設クラスターの一部(医療機関、高齢者施設、障害者施設等)の対応を行う。(令和4年2月1日からの対応)



2-2 人員体制

医療関係者及び市職員等が同じ執務スペースに常駐し、連携して対応する。(最大10名/日)

(1) 八王子市災害医療コーディネーター 2名

※ 基本オンコール対応

入院・受診の再トリージ、医師との調整等

施設クラスターの対応方針検討



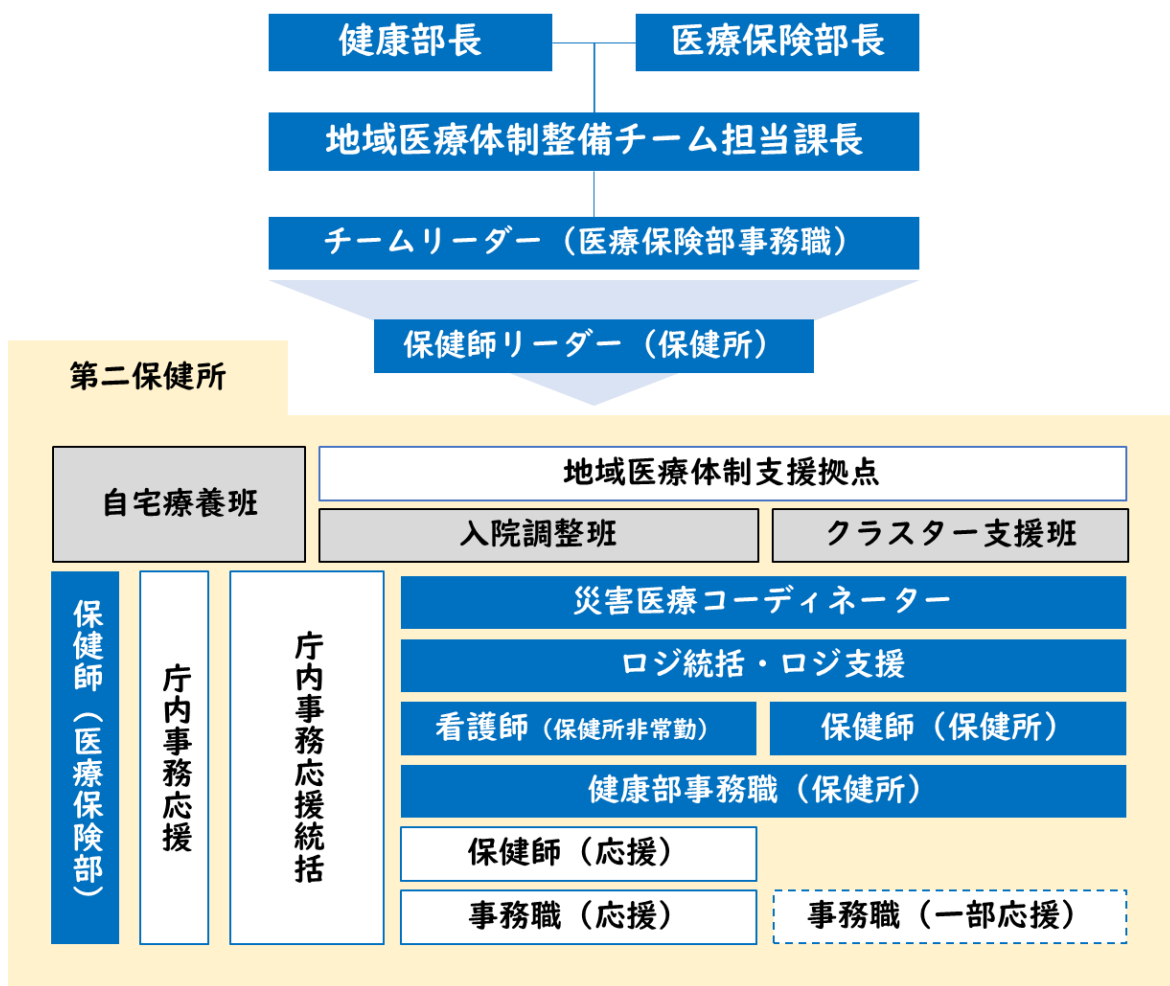
(2) 支援調整アドバイザー 救命士ほか 1~3名(計1~3名/日)

ロジチームの運営(運営に関わる医療機関との連絡、調整、情報収集・整理等)

八王子医療センター、東海大学八王子病院、清智会記念病院、南多摩病院、陵北病院

- (3)入院・受診調整 4～6名(保健師・看護師 2～3 名、事務職 3～4 名/日)
 …入院・受診調整、民間救急車の手配、受診後の状況確認、保健所との連絡調整等
- (4)クラスター支援 4～5名(医療従事者 2 名、保健師 2 名、事務職1名)
 …クラスター発生確認、感染拡大防止に向けた指導・物資調整、現地介入等
 (高齢者部門と連携して施設運営をフォロー)

【拠点体制イメージ】



執務室を仕切るパーテーションには…

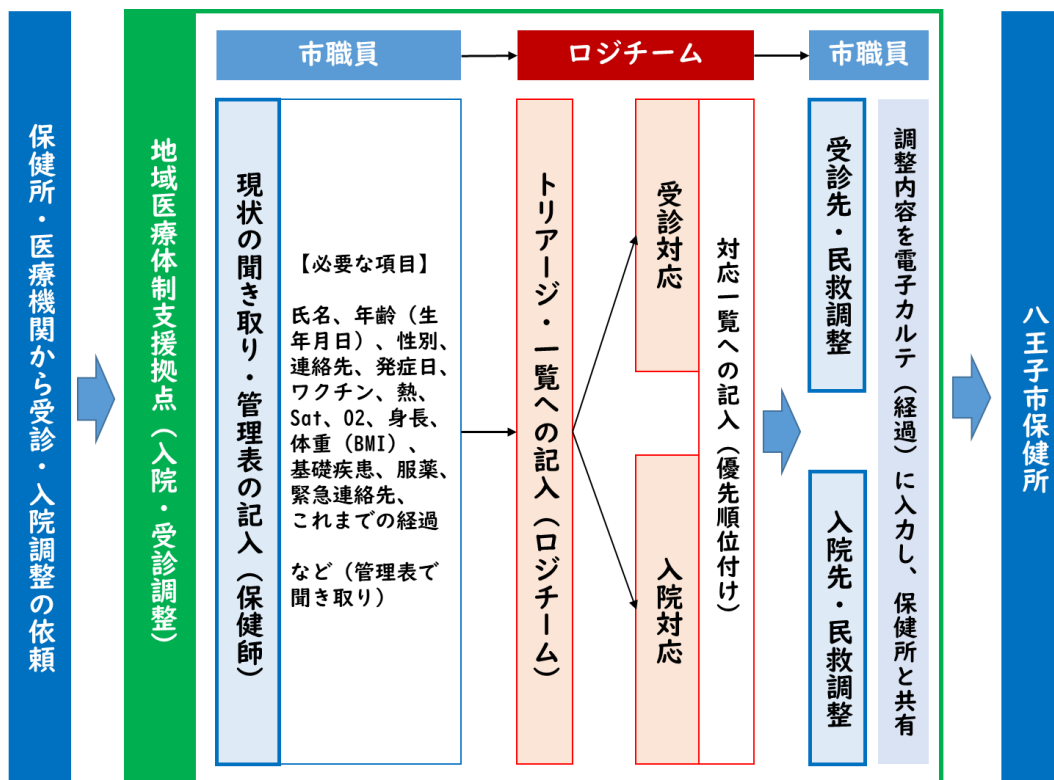
- ・ 入院・受診調整対象者の対応状況
- ・ 入院受入機関の空床情報
- ・ 受診可能な医療機関や民間救急車の一覧などの情報を掲示

3 拠点業務

3-1 入院・受診調整

(1) 調整スキーム

調整スキームは第5波と同様。拠点で再トライアージし、適切な医療機関に繋げる。



【参考】 第5波との主な変更点 (軽微な変更点)

- ・共有システムの導入による情報連携 (Teams 管理簿、電子カルテほか)
- ・高齢者施設からの入院 (往診) 依頼に対応 (施設クラスター対応)

(2) ロジスティックチーム (災害対応時のみ)

支援調整コーディネーターとして医療機関から1~3名配置。

入院・受診のトライアージのほか、活動の記録、医療機関との情報共有など、支援拠点が円滑かつ迅速に機能するための全体調整を行う。

主な活動内容 (ロジチーム作成: 第6波ロジ業務内容より抜粋)

- ① COVID-19 情報共有システム
 - 1) クロノロジー更新
 - 2) 入院待ち患者リスト更新
 - 3) 空床状況確認
- ② 受診/入院調整一覧表
 - 1) ホワイトボード更新
 - 2) データ化・グーグルドライブ更新

③ 定例会議

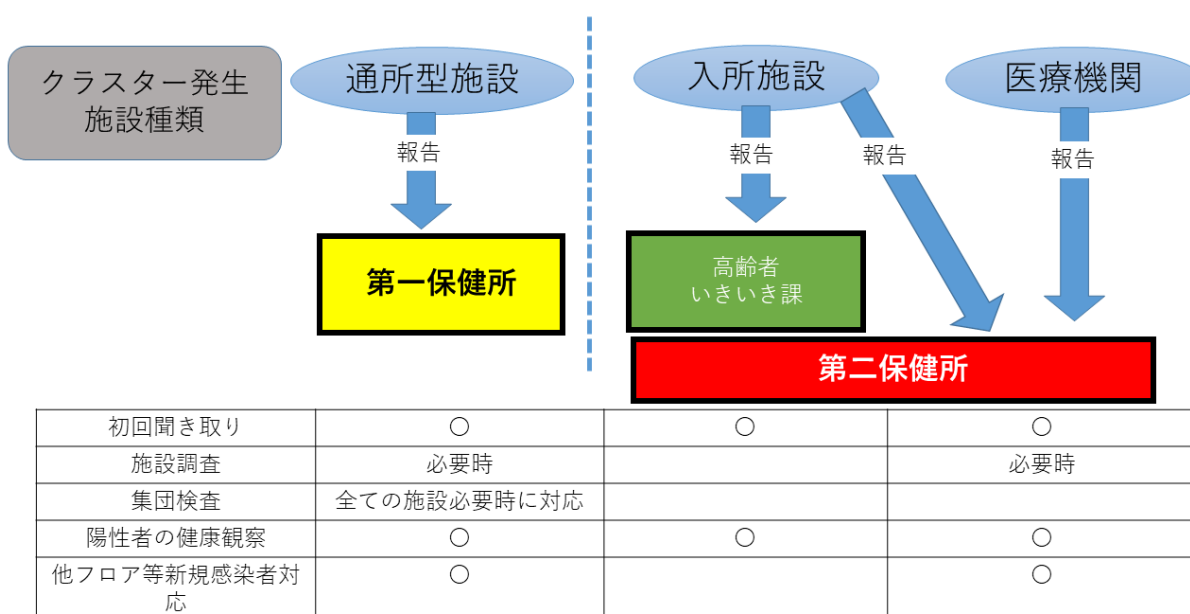
- 1) 定例会議立ち上げ
- 2) 会議補佐
- 3) 動画作成・メール配信

【「クロナジー(運営記録)」のイメージ】

時間	発信	受信	内容
2022年03月08日(火) 11時09分	本部		No2 陵北病院受診決定。民間救急シロクマゲアタクシーにて移動
2022年03月08日(火) 11時08分	長房共立診療所	本部	No3 3/5発症、本日抗原陽性。SpO2: 93%(RA) 入院調整依頼
2022年03月08日(火) 10時14分	保健所	本部	No1~2 受診調整依頼
2022年03月08日(火) 09時26分	八王子医療センター	本部	空床状況 3床 透析: 1
2022年03月08日(火) 09時25分	東海大八王子病院	本部	空床状況 2床 (男女問わず)
2022年03月08日(火) 09時24分	永生病院	本部	空床状況 男: 3床 個室: 2床
2022年03月08日(火) 09時20分	本部		朝礼 【本日の人員】 ・災害医療Co: 朽方先生 ・ロシ: 齋藤、古根村 ・入院受診調整: 辻野、中村、高山、中村Ns、森本、松崎 ・クラスター対応: 大竹、齋藤 【本日の予定】 ・13時定例ミーティング 【共有事項】 ・昨日からの積み残し: 8件

3-2 施設クラスター対策

拠点(第二保健所)に保健所感染症担当保健師が配置され、病院職員と連携し、主に施設(居住系)内での感染拡大防止に向けた取り組みについて、助言・指導する。



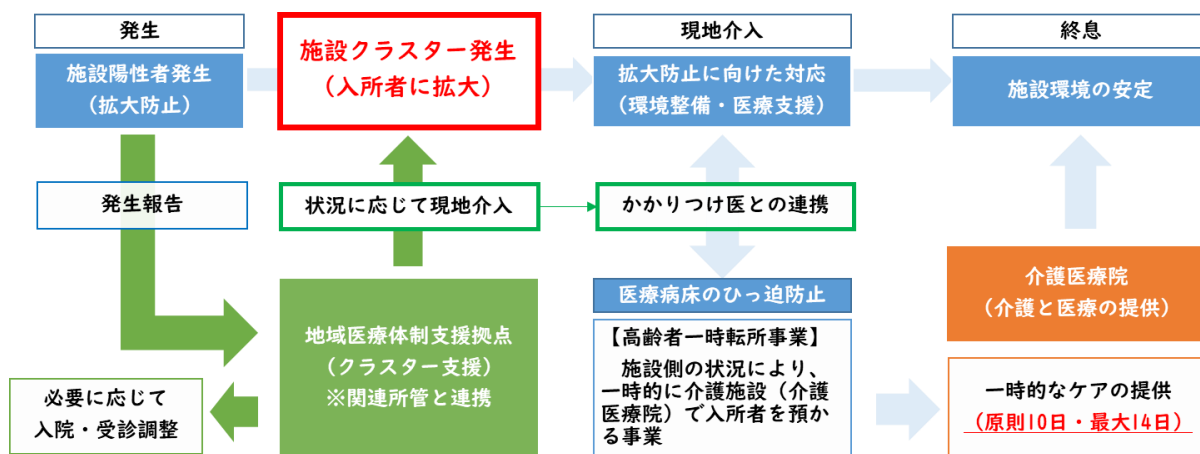
(1) クラスター班の配置

施設クラスターへの対応は、以下のチーム体制で担当する。

- ・保健所職員 2名(保健師主査1名、保健師担当1名)
- ・医療従事者 2名(救命救急士(D-MAT)1名、東海大学ICN 1名)

拠点業務終了時、当日対応した施設の概要をチーム内で共有し、今後の方針等を検討する。

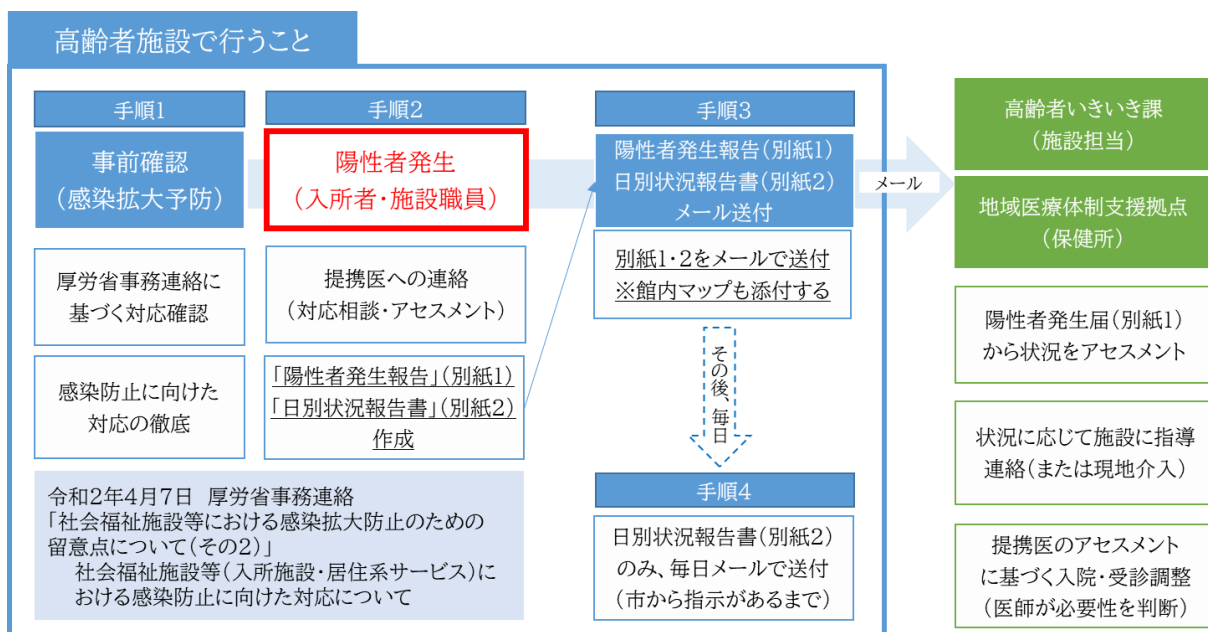
【クラスター対応の全体イメージ】



(2) 高齢者施設での発生状況把握・介入

ア 施設内感染者の把握

施設内で感染者が発生した(入所者又は職員)場合、高齢所管と共同で作成した様式を「高齢者いきいき課」及び「地域医療体制支援拠点」に送付し、状況報告する。(令和4年2月15日～)



↓ 発生報告様式イメージ(抜粋)

高齢者施設陽性者発生報告書(施設→市)						
令和●年●月●日				拠点受付日	拠点对応終了日	
このことについて、以下のとおり報告します。						
施設概要		施設種別				
施設名				施設住所		
施設窓口担当者				連絡先		
発生時点の状況			看護師配置(施設看護師)			
入居者数	職員数		配置人数	(うち現陽性者数)	夜間対応状況	
----- 発生の状況及び対応状況 -----						
現状陽性者総数			発生場所		看取り対応	
入居者		職員	発生した棟やフロア		平時	
施設療養者	他院入院					
かかりつけ医(施設への訪問等で普段かかりつけとなっている医者)			医師の対応(既に介入有の場合)			
医療機関名		医師名	介入有無	診察	検査	クラスター対応指導
			-	-	-	-

↓ 日別報告様式イメージ(抜粋)】 ※発生日以降、毎日感染者の状況を市に送付

高齢者施設陽性者日別状況報告書(施設→市)							
陽性者数							
患者(入居者)						職員	
●月●日分	施設療養中※1		入院中	死亡	※療養解除者は含まない		
日付	属性	名前	生年月日	発症日	陽性確定日	療養終了日	部屋番号(発生時)

イ 施設内の環境確認(電話での状況確認)

発生報告が提出された当日又は翌日に、クラスター班から、施設内の感染対策状況や感染者の状況等について確認する。

- ・ 施設内のゾーニング(レッドゾーン、グリーンゾーン)ができているか
- ・ 職員の勤務状況(職員不足、看護職がいない等)に課題はないか
- ・ 感染予防の物資(マスク、アルコール、ガウン等)は不足していないか
- ・ 嘱託医の加入状況(医療アセスメント、検査方針、) など

ウ 施設への現地加入(クラスター班)

必要に応じて医療専門職と保健所職員がクラスター発生に施設に介入する。
施設に介入する場合、共通の対応シートを活用して実態を整理・把握する。

【主な確認項目】

1 概要およびこれまでの経過

2 現状分析

指揮系統、感染状況、医療提供と健康管理、感染制御(ゾーニング等)、人的資源管理、物的資源管理、入院搬送・戻り搬送(療養終了後は原則速やかに施設へ戻ることへの認識含む)、環境整備、職員のケア、その他(ホームページ等での公表、家族対応など)

3 課題・対応方針(再訪問の必要性等)

≪参考≫ 「地域における自宅療養者等に対する医療支援強化事業」の拡充

令和4年2月新たに開始された東京都事業で、介護老人福祉施設及び介護老人保健施設においてクラスターが発生した際、施設の求めに応じて、地区医師会があらかじめ整備する医療支援体制により、医療機関が施設入所者への診療を実施する取り組み。(施設医ではない医療機関の加入)

八王子市では、そのチーム体制及び介入する仕組みを既に拠点で構築、運用していたため、八王子市医師会と連携し、本事業に位置づけ、推進することとした。(東京都医師会への申請・登録)

- ① 施設への医療支援体制の整備(医師会と市が連携して体制を構築…→拠点)
- ② 施設から地区医師会への診療要請(施設→拠点→医療機関)
- ③ 地区医師会の医療機関による施設入所者への診療(医療機関によるアウトリーチ支援)
- ④ 実績等の報告(医療機関→八王子市医師会)

(施設名) 支援活動報告

1. 概要およびこれまでの経過

2. 現状分析

➢ 指揮系統

◆ コンタクトリスト

・ 訪問対応：

◆ 施設としての情報共有体制（CSCA の確立）

➢ 感染状況

◆ PCR 実施状況

・ 患者 ※ここの陽性者数は累計の数を記載のこと

入所者	元々の総数	陽性	うち死亡	陰性	未検査	結果待ち
2階						
3階						
4階						
合計						

対応状況管理シート

施設名				住所		
担当者				連絡先		
主対応(HC or 拠点)	HC 覚知 (日付)	HC 介入 (日付)		拠点介入 (日付)	介入終了 (日付)	
発生前	累計陽性者			現状陽性者		
患者数 (入居者数)	患者 (入居者)	死亡	職員	施設内陽性者	入院中 (他院)	
発生経緯						
検査状況						
現状の課題						

3-3 調整会議(Web会議)

毎週火・金曜日の13時から情報共有を目的としたWeb会議を開催。

開催:拠点 ロジスティックチーム(Zoom ホスト)

参加:災害医療コーディネーター(司会)、保健所、入院病院、後方支援病院、医師会

報告:拠点对応状況、クラスター発生状況等

- ・感染者発生状況
- ・各病院から空床状況や課題などの情報提供
- ・保健所からの情報提供 など



3-4 高齢所管との連携推進

第6波の特徴のひとつとなる「高齢者施設クラスター」に対応するため、高齢者いきいき課と連携した状況把握や情報交換を行った。

- ・共通のクラスター発生届作成・運用
- ・発生施設におけるワクチン
- ・クラスター班との情報共有
- ・高齢者施設向けシンポジウムの開催

参考:Webセミナーの開催

高齢者施設内の感染対応オンライン研修会

COVID-19 対策 WEB セミナー in 八王子

第4回「第 6 波における高齢者施設の
COVID-19 対応」

日 時:令和 4 年 2 月 9 日 19時～

in 八王子

WEBセミナー

COVID-19対策

オミクロン株による新型コロナ感染症患者数の急激な増加に伴い、新型コロナ受入病院では通常医療も含め逼迫しています。そのため、現状では高齢者施設において感染者が発生しても自施設内で対応せざるを得ません。そこで、高齢者施設療養に備えたCOVID-19対策につき、八王子市医師会、八王子施設長会、八王子市(福祉部高齢者いきいき課、医療保険部地域医療体制支援拠点)との共催によりオンライン研修会を開催いたします。

2021年度
第4回

2月9日(水) 19時～20時

参加無料
先着 500 名

「第 6 波における高齢者施設の COVID-19 対応」

講師

呉 禮媛 氏

東海大学医学部付属八王子病院
感染症看護専門看護師

総合監修 平井 由児 先生 (東京医科大学八王子医療センター 感染症科 教授・感染制御部 部長)
司会 新井 隆男 先生 (東京医科大学八王子医療センター 兼任准教授)



4 高齢者施設一時転所事業(第6波新規事業)

高齢者施設でのクラスターを要因とする医療需要の急激な増加及びそれに伴う地域医療の供給不足を緩和し、医療提供体制の安定(施設内の医療的看護体制の確保や入院受入病院の病床ひっ迫防止)を図る、新たな事業を開始。(令和4年2月16日～)

(1)内容 : 一時的に高齢者施設入所者を介護医療院で受け入れ、適切な医療と介護を提供する。

(2)対象 : クラスター発生した市内高齢者施設入所者のうち、以下のいずれかに該当する者

ア. 厚労省通知健感発0225第1号(令和3年2月25日)で示す退院基準を満たす者(10Daysルールに基づく療養明けの方)

イ. 新型コロナウイルス感染症のPCR検査又は抗原検査で陰性が確認された者

ウ. クラスター発生施設において、感染の可能性が低いと考えられる者

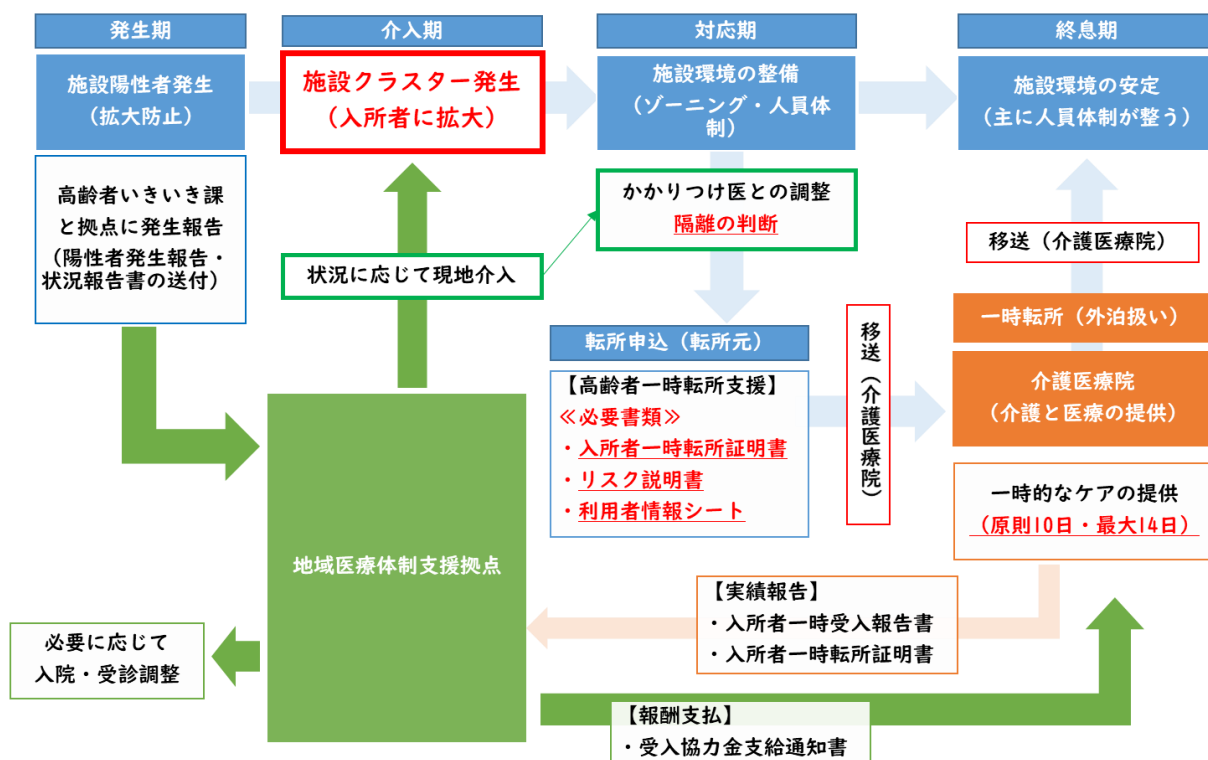
(3)費用 : 本人負担なし。※入所中に医療の提供が必要な場合は、通常の保険診療

(4)期間 : 原則10日、最大14日間(入所者の「外泊」扱いで対応する。)

(5)報酬 : 介護報酬に基づき、実績に応じて報酬を支払う(介護医療院への実績払い)

【単価(いずれも1日/人)】※介護保険の報酬単価に準じる

高齢者施設から介護医療院に一時転所する事務の流れ



5 まとめ(第6波の課題と今後に向けた検討)

(1) 地域医療体制支援拠点について

八王子市医師会の周知もあり医療機関からの入院調整依頼も多く、あわせて高齢者施設等でのクラスターが多く発生したことから、一時、入院受入病院の病床がひっ迫し、東京都入院調整本部による入院調整依頼の件数も増加する事態に繋がった。

有事の際、高齢者をはじめとする重度の基礎疾患をもつ感染者の受け入れ態勢を医療機関と連携して確認することが重要。(透析患者の入院受入機関の確認や医師への協力依頼など)

今回はクラスター対応として、クラスター施設への技術的な助言、高齢者いきいき課による高齢者施設対応など、所管が通常業務の中でより迅速に対応することができた一方、保健対策課の保健師について、保健所と拠点に人員が分散されたことで、感染症対策担当(保健所内)の業務量増加に繋がった。

第6波の特徴ともいえる高齢者施設でのクラスターで大きな課題となったのが、施設内の人員不足によるケアの低下である。

人員不足から軽症者でも入院が必要となる事態が生じ、病床ひっ迫を誘引するため、都の人材派遣をさらに有効に活用するなど、今後に向け、施設療養を支援する仕組みの再確認と周知について取り組んでおく必要がある。

なお、介護医療院への一時転院事業を開始したが、1施設だけではすべてのクラスター施設に対応することが難しいため、受入機関を拡充するとともに、感染者宅へ訪問できる訪問看護、訪問介護も充実する必要がある。(在宅療養者の一時的な介護支援)

(2) 業務調整

関係管理職が連携し、人的確保、場所や物品の確保を行った。

また、南口総合事務所、中央図書館の時間短縮などを行い、応援人員の確保を行う(部署に偏りがでないよう配慮)とともに、システム構築を行い、サーバーを共有できることで、3つの保健福祉センターの保健師が遠隔で応援できる体制が整った。

一方、当初、応援職員同士の引継ぎによる自立した循環(運用)を想定していたが、うまく機能せず、保健対策課主査がマネジメントすることとなり、業務負担が増加した。(統括する職員が不在)

BCP は本来短いものであり、これほどの長期の想定ではないため、「短期」・「長期」に分類した応援の仕組みを構築しておくとともに、応援名簿を作成し、有事の際、迅速に参集・運用開始できるよう準備する必要がある。(災害応援同様、所管も予め想定しておくことができる。)

第7波に向けて…

第5波からの課題を引き継ぎ、第6波に向けた準備を進めていたため、体制も含め迅速かつシステムティックに運用できたと考える。

しかしながら、全体のマネジメントについて、指示系統が複数存在したことから調整や決定に時間を要したため、今後、中核となる管理職に情報が集まるような運用体制を構築していく必要がある。

BCPの見直しや、人員確保の課題、情報の集約などの課題については引き続き検討することとし、来るべき第7波に備えていくことの重要性を再確認した。

【参考】 令和4年度 新組織について

旧： 地域医療体制整備担当課長兼感染症対策支援担当課長

↓

新： 医療体制整備は地域医療政策課長(拠点の立ち上げ、医療機関の調整)、

※ 拠点の運営は健康危機管理担当課長

令和4年（2022年）3月

新型コロナウイルス感染症対策地域医療体制整備チーム
八王子市地域医療体制支援拠点